

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 2 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470101977		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム うぐいすの家		
所在地	広島市南区黄金山町6番5号 (電話) 082-510-2555		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470101977&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470101977&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年3月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者・家族の皆様に「ここに来て良かったよ」と言って頂ける、安全で安心な生活。職員は「待つてネ!」の無いケアをしています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームうぐいすの家は、閑静な黄金山山麓に位置し、古きよき物を残した民家改造型の木造2階建てのホームで、入居者の方々が職員と共に安心と安全が確保された環境の中で、日々の暮らしを楽しまれている。開設以来5項目の運営方針のもとで、全職員は優しく・明るく・楽しく笑顔をもっとに入居者と接している。また当事業所では、入居者の方が地域の中でその人らしく元気に最後まで暮らし続けられるように、かかりつけ医や看護師等とのきめ細かい連携と協働のもとで、一人ひとりの健康管理や医療支援を行っている。
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、毎日唱和している。常に実践に取り組んでいる。	事業所の運営理念5項目を毎朝全職員で唱和し、意識づけを行っている。また、日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているかを全職員が確認し、ケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入している。職員が役を引き受け、交流に努めている。	町内会に加入し、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。入居者と職員が共に買い物や散歩などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしながら、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの相談（認知症の方への対応の仕方、施設への入居・介護）に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開催のための取組みを、定期的に行っている。状況報告もしているが、更なる取組みが必要と思っている。	運営推進会議を通じて、地域の人等が運営を見守ったり、協力者として助言し、理解と支援を得ている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の研修、実地指導・集団指導を通じて取組みを伝えている。アドバイス頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	していません。「身体拘束排除宣言」を掲げ、研修を通して具体的な理解をし取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止等については、マニュアルを整備し、事業所内・外の研修会等で身体拘束の禁止となる対象となる具体的な行為等は共有したうえで安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	していません。マニュアルの作成、研修会への参加により「絶対しない、させない」を合言葉に取り組んでいる。排除宣言を掲げている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内・社外研修へ参加し、理解を深めている。弁護士・司法書士と連携し、必要者は制度を利用している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容・重要事項説明書等 十分に読んでいただき、説明し、理解 納得の上で押印されている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族からの意見・要望の窓口を作っている。玄関に意見箱の設置。運営に反映させている。	運営推進会議や家族の来訪時に、率直な意見や要望等を積極的に聞き出しながら、検討し、改善につなげている。また、介護計画作成時や介護内容を説明する際にも、家族の意見や要望を聞き、運営改善に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1年に2回自己申告書の提出をしている。管理者が得た意見は、代表へ報告し業務へ反映させている。ミーティングを行っている。	職員からは、事業所で策定している年2回の自己申告書や、代表者やホーム長との面接等を通じて、職員の意見や提案を聞きながら、話し合いを行って運営の改善に反映されている。またホーム長が定期的に行うミーティングを通じて、意見や提案を聞き出す機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回自己申告書の機会を設けている。様々な要望意見が申告される。状況把握をし条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	把握している。年間を通して研修プログラムを作り、社内外、キャリアパス等の受講機会を確保している。資格取得の為の援助、取得者には褒賞で努力を称えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター主催の研修に参加し、地域の同業者との交流をしている。サービスの質の向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から入居前の訪問で情報を把握している。入居後は積極的にコミュニケーションを図り、ご本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前より、入居前訪問を通して、利用料のこと、病院に行くこと、病気になったらどうなるか等々にご質問等にしっかり傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者の思い、家族の意向をよく聞き担当ケアマネと優先順位を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活を通していつも主は利用者として位置づけている。見守りを通してご自分の出来ることは自分で、出来ないことへの支援は、自然に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に思いを聞きケアに取り入れている。誕生会、旅行、敬老会等の行事の参加・面会時の3者（利用者・家族・職員）の茶会を通じて関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人、家族に入居時に必ずお聞きしている。美容院、理容院、かかりつけ医、自宅訪問等同行し支援に努めている。	入居時にご家族からお聞きしている、馴染みの美容院や理容院、知人、友人等とつきあいを続けられるように、継続的な支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係に合った席作りをしている。全介助や重度の認知の方々も職員が関わり同席している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後も（死亡・退去）家族の方を敬老会にお招きしたりして、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活・介護計画時のアセスメント等で個々の思いに希望・意向の把握をしている。困難時には本人第一としている。	職員は日頃の関わりの中で、入居者との時間を大切に、日々の表情や目の動きから希望・意向の把握に努め、思いやりのある介護支援に努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前訪問・アセスメントを通して把握をしている。入居後も本人家族から聞き取りし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活をしっかり見守り観察している。現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>4ヶ月に一度計画を作っている。ケアカンファレンスを実行し、月毎の見直し、評価をし、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、本人やご家族の意見及び職員の気づきや意見を取り入れて作成している。基本的には4ヶ月ごとに介護計画を見直ししているが、入居者の状況の変化などがあった場合は、随時介護計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子、経過を個別日誌に記録し、職員間で申し送りを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院の送迎・入院時の付添い、面会時の送迎（高齢の家族）生活一般の中でニーズに対応し柔軟に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員の訪問、中学生・専門学校生の職場体験等協力。地域の店屋さんへの買い物等支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎週往診がある。必要あれば、外来受診し検査、治療を受けいている。入院対応時には、家族の希望を大切にしかかりつけ医と相談して適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の往診が週3回と、歯科医師の往診も必要に応じ行われている。看護職員も2名配置され協力医との連携も取れ、適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員が配置されている。介護職員は日々の生活の中での気づきを、看護職員に伝えている。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にホームでの生活状況を介護要約として渡している。入院中は毎日職員が訪問し、病院関係者との連絡を計っている。病院関係者からは入居・ショート等の相談を受けたりしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前に重度化した時や看取り実施時の指針を家族に説明し同意を得ている。また、状況の変化とともに入居者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を行っている。</p>	<p>入居時に、当グループホームの重度化や終末期の方針を説明されている。当事業所開設以来、多くの入居者の看取りが行われ、ご家族からも感謝されている。家族・本人の希望を踏まえ、チームで方針を話し合っ、安心と納得した最期を迎えられる支援体制ができている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>社内研修を行っている。定期的に訓練をしていないので急変時冷静に対応できるよう実践力を身に付ける必要がある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回 消防署や地域の方の協力を得て火災訓練を行っている。</p>	<p>年2回消防署の立ち会い指導の下で、避難訓練を実施されており、地域との協力支援体制もできている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として、個々の人格を尊重し、言葉かけや、優しい態度で接遇したい対応している。	グループ内研修や外部研修に職員を積極的に参加させ、プライバシーの確保に対する意識は高い。特に入浴支援時や排泄の誘導時の言葉づかいに、気をつけるよう指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でおやつ時の飲み物や、散歩、外出、旅行、衣服等で本人の意思や思いを引き出し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のたまかな流れはあるが、その日その日によって一人ひとりのペースに・体調が違うため、希望や体調にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容院・理容院に行っている。自分で出来る方は日々の着衣を選べるようにしている。外出時にはスカーフ・帽子・お化粧品等のおしゃれが出来るように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みを考えた献立を立てている。一人ひとりのADLに合った準備を一緒に行っている。	献立は入居者の好みを取り入れながら、元気な入居者において食材の調達や調理、盛りつけを一緒に行われている。入居者と職員は同じ料理と一緒に、職員は入居者の食事介助を行いながら、また楽しく語りながら食事されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体格、好み、病状に合った食事量、回数、栄養バランスを考え、対応している。食事量不足の場合は医師と相談の上、高カロリー補助食品でたいうしたり、一日の水分量を確保できるように詳細な記録をし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの口腔状態や能力に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意・便意がない方は排泄パターンに応じて、定期的にトイレ誘導を行っている。パットやおむつの使用を減らす取り組みをしている。トイレでの排泄が持続できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導し排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動により、出来るだけ自然に排泄できるよう取り組んでいる。自然排便が困難な場合は、医師の指示のもと下痢を使用している。理解もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	原則として 曜日・時間を決めているが、これにとらわれず可能な限りご本人の希望や状況に応じた入浴の支援をしている。	入浴は日曜日以外は毎日入浴出来る体制のもとで、羞恥心・負担感等に配慮しながら入浴し、常に気持ちよく暮らせる支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には布団を干している。夜間不眠の方には、昼間に適度な運動をして頂き、心地よい疲労感を持つ等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解している。看護師が中心となり管理・確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、季節、年間を通して様々の行事を計画している。一人ひとりの状態に合った行事に参加し、楽しみや、気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の天候、一人ひとりの希望や職員の声かけで散歩や日々の食材の買い物に出かけている。毎年、バス・新幹線・飛行機等を利用して温泉旅行に出かけられるように支援している。	入居者の介護度が高くなり、全員そろっての外出支援は困難になってきたが、天気の良い日にはホーム近郷の散歩や、食材の買い物に職員と同行されている。また、関連事業グループとともに、年1回はご家族同伴で温泉旅行に出かけながら、外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は理解している。自分で管理される方は所持している。手許金を預り使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望時 電話が出来る様に支援している。 ご家族からの手紙や贈り物の返事を書かれるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	夏・冬は早朝居室を開放しエアコンを屋内全部の温度調整をしている。日中はカーテンを利用し光の調節をしている。リビングには季節が感じられるような飾りつけを行っている。	季節のお花を食卓に飾り常に室温や湿度に注意し、入居者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	3人がけのソファ2台、1人用1台で、思い思いに談笑したり、一人で居眠りしたり、工夫して過ごして頂いてる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、居室はご自宅としてとらえていることを伝え、出来る限り本人の使い慣れた物、愛着のある物を持参して頂いている。仏壇をお持ちの方もいる。	入居者が、今まで生活されてきた環境に近い居室で暮らせるよう、できるだけ今まで使用された馴染みの品を持ち込んでいただき、楽しく暮らせる居室となるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗面所やトイレにはわかる様に表記している。居室がわからない人にはドアに名前等でわかるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない